

◆マリンカレッジ等の開催

ノギリガザミの放流体験

八重山支庁農林水産振興課

1. 目的

現在、西表ではノギリガザミの資源が激減している。このことを受けて、平成11年より竹富町、竹富町漁業振興協議会を中心に中間育成・放流に取り組んでいるが、これらの取り組みは地域住民に対し完全に理解されていない。そのため、地元小学生を対象に放流体験を行うことにより地域住民にガザミ資源保護の普及啓発を行う。

2. 実施対象

上原小学校全校生徒 52名

3. 開催日程

平成15年5月27日（火）～7月11日（金）

4. 実施場所

竹富町西表島船浦橋構内第2種区画49号

5. 協力

（旧）日本栽培漁業協会八重山事業場、竹富町役場、竹富町漁業振興協議会

6. 実施内容

平成15年5月27日から7月11日にかけて、ガザミの中間育成及び放流体験学習を行った。5月27日は、ガザミの取り扱い上の注意や中間育成後の生存率等、簡単な学習会を行った後に区画漁業権漁場の一部に事前に設置していた網に、生徒1人1人がバケツにガザミをとり、約2000尾の稚ガニを収容した。

放流までの間は先生と・父兄が交互に餌やりを行い、収容から約1ヶ月後の7月11日にはガザミを網から回収し放流を行った。生存個

体は110尾（生存率5%）であった。放流後の質疑応答では生徒から多くの質問がなされ、（旧）日本栽培漁業協会八重山事業場の事業場の浜崎氏が対応した。

7. 所感

今回の放流体験ではただ放流するだけではなく、ガザミの収容、中間育成、放流の一連の作業を行った。これらの作業を通して上原小学校の先生、生徒・父兄にガザミ放流の大変さを理解してもらえたと思う。また、生徒の質問内容から多くの生徒が栽培漁業に関心をもったように思われた。来年度も引き続き実施し、学校から地域へ放流事業の取り組みを発信していきたい。

◆上原小学校の生徒から出された質問

- ・中間育成中の稚ガニの主な死亡原因は何か？
- ・放流した後はカニは共食いしないのか？
- ・放流後は何を食べているのか？
- ・今まで餌をもらっていたカニが放流後いきなり自分で餌をとれるのか？
- ・放流後だいたい何匹くらい生き残るのか？
- ・何年くらい生きるのか？
- ・どのくらいまで大きくなるのか？
- ・放流したカニは群れで生活するのか？
- ・どこまで移動するのか？



取り上げの様子①



取り上げの様子②



放流の様子